

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400023	事業の開始年月日	平成17年5月1日
		指定年月日	(平成17年5月1日) 平成20年4月1日
法人名	社会福祉法人豊笑会		
事業所名	ライフハウス 日ノ出		
所在地	(231-0066) 神奈川県横浜市中区日ノ出町2-132-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
定員計		18名	
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京急線日ノ出町駅から徒歩4分の神社や学校・公園に近い住宅地に有り4階建て屋の3・4階に位置している バス通りからひとつ入っている為思ったより静かで隣の公園から子供達が遊ぶ声が聞こえてくる環境です。
1・2階には小規模多機能型居宅介護と通所介護事業所が有り、日常的に交流する機会が多い。
法人が特別養護老人ホームを運営しており、家族には安心感を与えているボランティアが定期的に開催する、習字・朗読・車椅子ダンス・手話ダンス・コーラス・剣舞等が利用者に好評である。
初詣は隣の神社に参り、桜の時期は大岡川へ散歩に行ったり、フロアから見える隣の神社の桜を満喫している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年11月27日	評価機関 評価決定日	平成24年12月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇利用者主体のケアの姿勢
事業所の理念である「笑顔で穏やかな介護」を念頭に、職員は利用者の立場に立って気持ちを理解し、利用者の思いの実現に向け支援に取り組んでいる。利用者は食材の買出しや調理後片付け、洗濯物たたみ、掃除など自分のできることや得意なことに主体性を持って取り組み、いきいきと過ごしている。
誕生日や敬老の日には、一人ひとりの日常の行いに対して「表彰状」や「感謝状」を贈り、利用者の自信と励みに繋げている。
◇多様な外出支援
利用者のADLの低下に伴い毎日の散歩が減っているが、喫茶店やファミリーレストラン、理美容院、作品展の見学など、行きたいところへ個別に、あるいはグループで出掛けている。また年2〜3回は遠出を企画して、多様な形での外出支援に取り組んでいる。11月には「山下公園と人形の家」に出掛けた。
【事業所の工夫点】
◇リビングに大きなボードを掛け、一週間の予定が細かく記入しており、入居者はそれを見て「日直」や「お茶当番」「新聞当番」「入浴予定」など、自分のすることを認識し、お互いに助け合いながら生活している様子が伺える。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフハウス日ノ出
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念を共有し、心を豊かにし、微笑みを持って日々の介護に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットの入り口に法人の理念と事業所の約束を掲示し、職員は入職時研修や毎月のフロア会議で共有している。 ・職員は利用者と同じ目線で気持ちを汲み取り、一人ひとりの立場に立った支援に取り組んでいる。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している お祭りの際に寄付をしたり、餅つきの際は法人所有の臼・杵を貸し出したりしている 地域ボランティアの受け入れや町内のイベントに参加させてもらっている。 餅つきは誤嚥事故防止のため実施していない	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入し、町内会館で行われる落語や演奏会に参加している。 ・事業所の納涼祭に近隣の住民を招待したり、地域の祭りには物品を貸し出し協力している。 ・中学校の職業体験で生徒を受け入れ、胡弓やハーモニカ、習字のボランティアも活動している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出・散歩したり、隣の公園に行き、挨拶を交わしたりして地域の方々に理解してもらえる様に、又見学希望者には積極的に見学希望を受け入れ施設内の開放に努めている 福祉体験学習の中学生3～4名を毎年定期的に受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2,3か月に1度の会議にて入居者への理解やホームに関しての理解をしてもらっている 会議で出た意見は各フロア会議で報告しサービスの向上に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、同一建屋内の小規模多機能型と合同で、今年度から2か月ごとに開催している。 ・事業所の状況報告の後、町内会長から「まだ地域にホームが周知されていない」との意見があり、現在「見学会」開催の準備中である。 	会議への参加人数が限られてきていますので、委員各位が出席しやすい時間帯などを工夫して、参加を働きかけることが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最近は何遇困難者が少なく、区の健康福祉課に相談する事は無いが、以前は介護度の高い入居者に関して相談をしてアドバイスをもらったりしていた	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者の交代の折、区の担当者に挨拶に出掛けたが、今後も積極的に現状報告や相談をしながら協力関係を深めていく予定である。 ・運営推進会議の議事録は、高齢福祉課の担当者に直接届けている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の3・4階がグループホームであり、エレベーターに防止策が無く、危険な為、各フロアの玄関はオートロックになっている。フロア内の移動は自由である。又非常口の施錠は簡単に開けられる様になっている。身体拘束をしない様話し合い、転倒リスクの高い入居者はベッドの下に怪我防止の為のマットを敷いたり、ベッドを止めて布団にしている	・職員はフロア会議や勉強会で身体拘束廃止や、高齢者虐待防止法について学び、言葉の暴力や何が虐待に当たるかについて共有している。 ・安全確保の観点から、家族の了解を得て各ユニット入り口を施錠している。非常口は施錠せず職員は見守りの強化で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束に関する資料は各フロアに配布されている 入浴時全身チェックを実施し、傷・あざ等の有無を確認し、発見時はいつ・どこで・どの様な時になったのか又なったのであろうかを話し合い、事故報告・ヒヤリハットに記載している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料はフロアに配布されていて、会議等でおおまかな内容は伝えられているが、実際には管理者が対応しており、全職員が関係者と話し合いをしたりする事は無い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学やパンフレット請求時に説明をし、入居契約時にもきちんと説明をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料の請求・領収書発行時にホーム内の様子の報告をしたり、来設時にはお茶を出して話し易い雰囲気作りをしている。ご意見ご要望が寄せられた場合は会議時に話し合い・検討をしている。苦情受付用紙が設置されている	・利用者の意見や要望は日常生活の中で聞き取り、実現に向けて取り組んでいる。 ・電話連絡や面会時に、家族の意見や要望を聞く時間を取っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議・リーダー会議（管理者・フロアリーダー）・経営推進会議（理事長・各部門の管理者・リーダー）等の会議により順次職員の意見や提案が報告され、反映されている	・毎月のフロア会議やリーダー会議、経営推進会議などの機会に職員からの意見や提案を聴き、職員が積極的に運営に関わる体制作りを目指している。 ・ADLの低下に伴う入浴時の職員体制の変更や紙おむつの当て方を勉強した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新年会は法人主催で毎年開催されている。夏祭りは法人本部や法人内の関連施設の役職者が手伝いに来てくれる等各施設間の交流が持っている。毎月の収入の他に処遇改善手当などの手当が支給されている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年4月・10月に新入職員研修を法人本部主催で実施している 資格支援制度が有りヘルパー2級の資格取得を奨励している グループホーム連絡協議会のグループホーム間の交換研修に参加している 講習会・研修会の資料配布をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会の講習会に参加したり、交換研修の実施により、交流・体験を通じて学んだ事を日々の業務に生かしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを兼ねて本人に会って、本人の生い立ちや家族歴、趣味や嗜好等色々なお話をしたり、お話を聞かせて頂いたりして、お互いに理解できる様に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からお話しを傾聴し、相談し易い雰囲気を作る様に努めている。傾聴と受容を基本とし、不安が解消する様、何度でも話し易い雰囲気を持って対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談、入居後、面会時のお話を傾聴、入居者の変化様子を細かくお伝えする。入居者の生活歴・趣味・嗜好等をお聞きし、新しい生活に早く慣れて頂ける様に、又居心地良く過ごして頂けるには？等を中心に支援の見極めと対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の話を良く聞き、会話の時間を努めて取る事により、お互いの理解ができ、同じ時間と空間を共有する者同士としての関係作りをしている 入居者のADLを把握した上で、今後の生活に何が必要か？スタッフ間で話し合っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に来設して頂き、入居者とゆっくり会話して頂く時間を設けて頂ける様にお茶を出している 書面や口頭で入居者の様子を伝え、困り事を相談したりして連携を取っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に来設して頂き、入居者とゆっくり会話して頂く時間を設けて頂ける様にお茶を出している 電話で話をされる方もいる	・近所の友達や親戚の方が訪問した際には、居室やリビングで歓談できるよう配慮している。 ・家族同伴で、自宅やお墓参り、買い物に出掛ける方もいる。 ・年賀状や手紙を書く手伝いをし、関係の継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて同じ作業、作品を作り利用者同士の会話があるように声掛け、介助、話題作りをしている。相性の良い利用者同士自席を近くし自然と関わり合いが持てるような環境作りをする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も年賀状・暑中見舞いを送ったり、電話をしたりしている。他施設に移動した利用者に対し面会を行い様子を確認する		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを取り、一人一人の要望・意見を傾聴し、入居者の思いを尊重し、意向になるべく沿った日常生活が送れる様に努めている	・思いや要望は日常の生活の中で聴き取り、意向に沿って個別に対応している。（理美容や買い物などの外出の希望に職員が付き添っている） ・意向の把握が困難な場合は、表情や仕草を観察して、本人の意向に近づくように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報や会話の中での情報を把握し、その人らしさを見出し、それを保ち続けられる様になっている ご家族様にも話し合いより詳しく情報を得られるよう心掛ける。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの情報や日々の生活状態を良く見て、一人一人に合った生活支援を目指して話し合い、情報共有をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議で入居者の状況を話し合ったり、日々の業務時にも一人一人にあったケアについて話し合っている。その結果や家族の意見も参考にしている	・毎月のフロア会議で、担当者を中心に全員でアセスメントの内容、家族の意向と利用者の状況を確認して、介護計画を作成し、半年毎に見直している。 状況に変化があれば、都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送りノートへ日々の変化を記入し、毎朝の申し送りで様子を申し送り、各々のスタッフが情報共有して介護の実践をしている 毎月の様子のまとめ等を活用して、介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子観察により本人の様子の変化の把握や家族の希望・要望により対応していく様にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の様子を把握し、近隣への散歩、買い物、美容院等の利用をさせてもらっている 歩行の強化の為フロア内を音楽に合わせて足を高く上げて歩行訓練等をしたり、毎朝ストレッチ運動をしたり、階段の昇降で足を高く上げることで歩行訓練を行い毎朝ストレッチを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、提携医療機関から往診がある 毎週歯科検診の実施 必要に応じて歯科治療の往診もある 体調急変時には緊急での往診対応や看護師が来設し、必要な処置をしてくれている	・整形外科、精神科のかかりつけ医に通う方は、家族が付き添っている。受診結果は職員全員で共有し、翌月の受診日までの様子を記録して報告している。 ・月2回、提携医療機関から内科医の往診、歯科検診や往診、看護師の来訪もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ建物内のデイサービスの看護師に日常の健康管理に関する相談に乗ってもらい、必要時には医療的処置もお願いしている 往診医の所で在宅の担当をしている看護師に色々相談し、助言・処置を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後も症状に応じて病院側と連絡を取る。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医が近隣で、在宅も手掛けている医師が往診に来てくれている 緊急時は相談・助言・対応等の実施を医師・看護師がしてくれている 又御家族からも延命処置に対する意思表示を書面にして頂いており、又緊急時の連絡先も明記していただいている	・看取りは原則行っておらず、入居時に本人と家族の希望を聞き、事業所ができることを説明して了解を得ている。 ・医療行為がなく、家族の要望と協力が得られれば検討する方針で、実際に看取りを行った事例もある。	家族から看取りに対する要望が出ており、既に事例もあることから、24時間の医療対応などの環境を整備するとともに、計画的に職員研修を行い看取りの体制を確立されることをが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故時のマニュアルは各フロアに掲示して有り、一人一人の職員にも渡してある 緊急持ち出し品も用意しておりすぐ持ち出せる様になっている 以前に消防署の方から応急手当についての指導を受けた事はあるが、最近では実施していない 緊急時の対応に関して会議で話し合っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での話で地域との合同訓練を実施したい旨話している 災害対策用品として水・非常用保温アルミシート・飲料水用ジャグー・調理用の水用のポリタンクを備蓄し、浴槽には常に水を張っている	・今年度は2回の防災訓練を行う予定で、既に夜間を想定した訓練を行った。 ・夜間に災害があった場合、夜勤職員だけでは入居者の安全確保が難しく、地域に協力を呼びかけることで検討している。	運営推進会議などを通じ地域との連携を強化して、災害時の協力体制作りに活かすことが期待されます。 また、3日分の水や非常食をはじめ、災害対策用品の備蓄が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つける様な言葉遣いはしない様に、人生の先輩として尊敬した言葉遣いや対応に努めている	・入居者には敬いの気持ちで接し、節度ある対応を心がけている。 ・プライバシーの確保と接遇の大切さは研修で学ぶほか、日常業務の中で互いに振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全て介助せずに、本人の残存能力を活用できる様な声掛けをするようにしている 本人の意思を尊重し、「やりたい」「できる」という気持ちを大切に出来る様な介助ができる様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっているが、利用者の身体状況・意思・希望・ペースに合わせて起床時間・食事時間等を臨機応変に変更して対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物は入居者自身で選んでもらう様にしているが、体調・天候・気候に応じて、職員が声掛け、介助する場合がある 行事・外出の際、職員介助にて化粧や正装を促したり介助する		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は決められた献立により食事の提供をしているが、月に1回は職員・入居者全員で食事作りをしている 日々の生活の中で、できる方には、きざみ・合える・盛り付けをお願いしてやってもらったりしている 下膳や食器拭きは無理の無い様に入居者の意思を確認して実施してもらっている	・食材は業者に委託しているが、調理法や味付けに変化を持たせている。職員は利用者と一緒に食事を見ながら見守りや介助をしている。 ・月に一度はお好み焼きや餃子、炊き込みご飯などをみんなで作って昼食を楽しみ、誕生会には本人の好みのものが食卓に上っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はタイヘイに依頼しており栄養摂取量・バランスに関しては問題は無いと思われる 食事量・水分摂取量は記録した表により確認できる様になっている 体調・気分により摂取量が少ない方は栄養補助食品で補ったりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後の歯磨きを実施し、週に1回は口腔ケアで専門家に口の中の状態を診てもらって、アドバイスももらっている 指摘された点は洗面台近くに掲示し、スタッフが日常の口腔ケア時に注意して対応している。 夜間は義歯を預かり、洗浄・消毒をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、トイレにて排泄できる様声掛け・誘導をしている 立位不安定な利用者に対し2人介助にてトイレ排泄を行う	・自立支援を目的として排泄チェック表により入居者個々の排泄パターンを把握し、声を掛けてトイレに誘導している。 ・オムツ使用者も様子を見て時間をみて誘導し、トイレで排泄するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時牛乳 10時にヨーグルトにオリゴ糖を入れる。食後のトイレ誘導・体操等も実施しているが、それでも便秘してしまう場合は、往診医により処方された緩下剤の服用をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は大体決まっているが（週3回は入浴したい為）、行事・体調により曜日変更をしている 入浴前には、必ずバイタルチェックを実施し、体調管理をすると共に、入浴（通常・短時間）・シャワー・清拭・中止等を決めている	・入浴は原則週3回とし、入浴時間や回数はできるだけ希望に沿うよう努めている。 ・身体能力に問題がある場合も職員2人が対応し、浴槽に浸かって入浴を行っている。しょうぶ湯やゆず湯で季節を楽しみ、冬場は寝る前に足浴をする入居者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロア内の温湿度の調整に注意を払い、本人の希望や体調・身体状況により居室で休んでもらう様にしている 又リビングで居眠りをされている場合居室で休む様声掛けして、本人の意思確認をしている（「ここで良い」との答えであればしばらくはそのまま様子を見て、又上記の声掛けをしている）		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の週間壁掛けポケット（曜日と朝・昼・晩の仕切りがある）と袋で分類し、服薬時、誤薬の無い様に、名前を確認して手渡し、飲み込むのを確認している。処方薬の説明書は個人ファイルに保管しており、副作用等も記載してあるので、必ず目を通す様にしている 新薬が処方される際は必ず連絡ノート、申し送り等で全職員に周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きを始めとして各々できる事をお手伝い頂き、役割を持つ喜びをもって頂ける様にしている 残存機能を生かし、少しでも張り合いの有る生活をして頂ける様にしている 買い物等もスタッフと一緒に掛けて、気分転換を図ってもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLの低下等により、希望通りにはいかない事が多いが、こまめに戸外に出る様にしている 春のお花見・秋の紅葉狩り・近くの公園でのピクニック等季節を感じてもらえる様にしている ドライブ・外食等楽しんで頂ける様支援している	・気分転換を図るため、天気の良い日は屋上で外気浴や隣接する神社へ散歩に出掛けている。入居者の希望に合わせて、喫茶店、理美容院や商店街の買い物など個別の外出支援も行っている。花見や紅葉狩り、四季の三溪園など年間行事としての外出も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理しているが、御家族の了承を得て手元に現金を持っている人はいる 日用品の買い物時、スタッフと一緒に外出し、買い物を楽しんでいる方もいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は喜ばれるので、協力して頂いている 手紙のやり取りはご希望が無いのでしていない 定期的に電話を下さる家族もいれば、こちらから電話をするのも了解を得なければならぬ家族もいるので、その都度支障の無い様に対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面には大型の手作りカレンダー・季節感のある物を掲示している トイレ・浴室などはわかり易い様に表示している 各居室の入り口には表札の他に、扉に名前とその居室の方の写真を貼り分かり易くしている	・日当たりの良い明るい居間には、行事の写真や手作りカレンダー、職員の季節にちなんだ絵を飾り、季節感や話題づくりに配慮した空間づくりをしている。 ・共有空間は掃除が行き届き、温・湿度が適切に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席の他にソファが有り、各々リラックスした自由な時間を過ごしている又洗面台の横にはベンチが有り、そこで過ごされる方もいる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みをお願いしてお持ち頂いている 本人・家族で居室内の設えはして頂いている 其後の変更は、職員と入居者で相談をして実施している 誕生日のお祝いボードやその方の作品を飾ったりしている	・エアコンとクローゼット付きの居室に、入居者は馴染みの筆筒や仏壇、テレビなどを持ち込み、家族の写真や塗り絵の作品を飾って、自分らしい部屋にしている。 ・月一回「掃除日」を設け、職員と共に自室の掃除に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の手伝い・天気図への記入・お茶のパック詰め等できる事を、無理無くして頂いている 各所に表示をして分かり易くしている又廊下幅が広く取っており、手摺りを設置して安全に移動し易い様にしている		

事業所名	ライフハウス日ノ出
ユニット名	4階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を入口に掲示してあるので職員は理念を共用し利用者に喜んで頂けるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアを受け入れ外食やお茶飲みに行ったり散歩に出掛けたりします		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出・散歩したり、隣の公園に行き、挨拶を交わしたりして地域の方々に理解してもらえる様に、又見学希望者には積極的に見学希望を受け入れ施設内の開放に努めている 福祉体験学習の中学生3～4名を毎年定期的に受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2.3か月に1度の会議にて入居者への理解やホームに關しての理解をしてもらっている。会議で出た意見は各フロア会議で報告しサービスの向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	最近では処遇困難者が少なく、区健康福祉課に相談する事は無いが、以前は介護度の高い入居者に関して相談をしてアドバイスをもらったりしていた		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア内移動は自由であり階段は危険なのでフロア玄関はオートロックにしています。身体拘束をしないよう話し合いケアにあたっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待拘束の資料は各フロアに配布されており入浴時にはアザ、傷が無いかの身体確認を行うようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料はフロアに配布されていて、会議等でおおまかな内容は伝えられているが、実際には管理者が対応しており、全職員が関係者と話し合いをする事は無い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学やパンフレット請求時に説明をし、入居契約時にもきちんと説明をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を記入して頂けるよう各フロア入口に用紙を置いてあり、面会時に様子を話し合ったり要望を聞くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を開く機会を設け、反映させている	月1回の会議（フロア会議、経営推進会議等）により意見や提案が報告されます		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新年会は法人主催で毎年開催されている。夏祭りは法人本部や法人内の関連施設の役職者が手伝いに来てくれる等各施設間の交流が持てる。 毎月の収入の他に処遇改善手当などの手当が支給されている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年4月・10月に新入職員研修を法人本部主催で実施している 資格支援制度が有りヘルパー2級の資格取得を奨励している グループホーム連絡協議会のグループホーム間の交換研修に参加している 講習会・研修会の資料配布をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会の講習会に参加したり、交換研修の実施により、交流・体験を通じて学んだ事を日々の業務に生かしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを兼ねて本人に会って、本人の生い立ちや家族歴、趣味や嗜好等色々な話をしたり、お話を聞かせて頂いたりして、お互いに理解できる様に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントに目を通して理解し不安解消して頂けるよう雰囲気作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の生活歴などを理解し新しい生活に慣れて頂けるように居心地良く過ごして頂けるように支援の見極めと対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの理解が出来同じ時間の空間を共有する者同士として話を聞き会話の時間を作るよう努め関係作りをしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に来設して頂きお茶を飲みながら会話をして頂きゆっくりと過ごして頂けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に来設して頂き他入居者に気兼ねなく過ごして頂けるよう努めています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格を把握した上で仲良く生活して頂けるようリビングで一緒に活動して行けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も年賀状・暑中見舞いを送ったり、電話をしたりしている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で要望、意見、趣味を聞き出し思いを尊重し意向になるべく沿った生活を送れる様に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報や会話の中から見出しその人らしい生活を送れる努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの情報や起床時から観察し話し合いをして情報を共有しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りで様子を把握、フロア会議で状況を話し合い家族の意見も参考にし計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日々の記録を記入し申し送りで情報を共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様子と観察の変化を把握し家族の希望、要望により対応できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の様子を把握し、散歩・買い物・美容院等の利用をさせてもらっている 外でも安全に歩行できる様に、毎朝の体操後階段（1階～4階）の上り下りを実施している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、提携医療機関から往診がある 毎週歯科検診の実施 必要に応じて歯科治療の往診もある 体調急変時には緊急での往診対応や看護師が来設し、必要な処置をしてくれている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ建物内のデイサービスの看護師に日常の健康管理に関する相談に乗ってもらい、必要時には医療的処置もお願いしている 往診医の所で在宅の担当をしている看護師に色々相談し、助言・処置を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は必要物品を届けて様子を聞いたり、退院後も症状に応じて、病院側と連絡を取っている。近隣の総合病院の相談室のMSWとすぐ連絡がつく様にしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医と夜間も連絡が取れ緊急時には来設して頂け家族とも連絡できるようになっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故時のマニュアルは各フロアに提示してある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害用のビデオ視聴し防災訓練も実施しています。飲料水、保湿シートの用意もしてある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付け、入居者の人格を尊重する様努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切に出来る範囲で聞いて自立支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は本人の体調希望に応じて対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は起床介助時本人に聞きながら、天気や季節を考慮した助言をしながら決めている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は決められた献立により食事の提供をしているが、月に1回は職員・入居者全員で食事作りをしている 下膳・食器拭き・お盆拭きをしていただいている 御本人の希望がある場合は食器洗いをして頂く事もある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はタイヘイに依頼しており栄養摂取量・バランスに関しては問題は無いと思われる。食事量・水分摂取量は記録した表により確認できる様になっている。体調・気分により摂取量が少ない方は栄養補助食品で補ったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後の歯磨きを実施し、週に1回は口腔ケアで専門家に口の中の状態を診てもらって、アドバイスをもらっている。指摘された点はスタッフが日常の口腔ケア時に注意して対応している。夜間は義歯を預かり、洗浄・消毒をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、介助の必要な方には定時誘導し、その他の方は声掛けにて行って頂くようにして、トイレにて排泄できる様声掛け・誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳、10時のお茶の時にヨーグルト(オリゴ糖を混ぜている)を提供し、食後のトイレ誘導・体操等も実施しているが、それでも便秘してしまう場合は、往診医により処方された緩下剤の服用をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は大体決まっているが(週3回は入浴したい為)、行事・体調により曜日変更をしている。 入浴前には、必ずバイタルチェックを実施し、体調管理をすると共に、入浴(通常・短時間)・シャワー・清拭・中止等を決めている。 浴室では職員と会話を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調・身体状況により居室で休んでもらう様にしている 又リビングで居眠りをされている場合居室で休む様声掛けして、本人の意思確認をし、危険性（椅子からの転落、体温の低下による体調の不調等）の無い限りは御本人の意思に添った対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の1回分を袋に入れて分類し服薬時に誤薬の無い様名前確認、手渡しし確認しています。薬の効能書を見るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々できる事をお手伝い頂き、役割を持つ喜びをもって頂ける様にしている 年間を通して季節毎の行事に参加して楽しんで頂いている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	川沿いを散歩したり近い所では買い物に行かれたりお花見、紅葉と季節ごとに外出をし季節感を感じて頂いている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が少しでも手元に持っていたいと言われる方は家族の了解で本人が管理している。基本的にはホームで管理しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は喜ばれるので、協力して頂いている 手紙・はがきは、自由にやり取りしてもらっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室等は表示があり壁には季節感のある物を飾ったり、手作りカレンダーを掲示してあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席の他にソファ・テレビが有り、各々リラックスした自由な時間を過ごしている 本・アルバムも見ることが出来る様に置いてある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みをお願いしてお持ち頂いている 本人・家族で居室内の設えはして頂いている その後の変更は職員と入居者で相談をして実施している バスデイクードやその方の作品を飾ったりしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除の手伝い等できる事を、無理無くして頂いている 各所に表示をして分かり易くしている又廊下幅が広く取っており、手摺りを設置して安全に移動し易い様にしている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ライフハウス日ノ出

作成日 平成25年1月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取組み会議の開催日の間隔	2か月に1回の開催	運営会議で、2か月に1回の開催のお願いをする。	1年
2	33	ターミナルケアが出来るように。	ターミナルケアが出来るような体制を整えて行く。	ターミナルケアが出来るよう家族・嘱託医の協力や理解をして頂けるよう努めて行く。	1年
3	35	非常食や水の備蓄がなされていない。	非常食・水の備蓄対策をしていく。	災害はいつ起こるか分からないので当施設として少しずつ準備を進めて行きたい。	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。